

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 26日

事業所名 タートル体力運動能力開発ラボ TURTLE KIDS

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		準備体操等、広がって行っている。サーキットを空間いっぱい広げている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		急な休みにも対処可能な人数である。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		身支度の順番等、分かりやすいように絵カードで示している。活動内容を分けられるようについ立などで工夫している。	段差が所々あるので無くす。又は坂道にする。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			子どもの背丈あった手洗い場があればよい。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員会議だけでなくその都度活動を振り返って意見交換をしている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回初めての評価を実施。今後の業務改善に繋げていきたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		本年度開所だった為、前年度分はないが、本年度は公開予定。また早急にHP作成に取り掛かりたいが間に合わなかった場合は書面にて配布を行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部との交流が行えていないので今後行う。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部で資料を作成し研修会にも参加している	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		どのような支援計画だったかを定期的に振り返っている すぐに支援計画の内容が確認出来るようファイリングしている	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		色々な活動を取り入れている。 毎週テーマを決めて内容を工夫している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		役割分担を確認し、活動内容を確認している。	リーダーは決まっているものの細かい役割分担が決まっていない為、活動前の打ち合わせをしっかりと行う。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		1人ひとりの様子を報告し意見交換を行っている。	気になる事は先延ばしにせず共通認識が持てるよう報告・連絡・相談の徹底。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎回記録を行っている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		相談員と連携を取りながら必要な社会資源に繋げて貰う。		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保育園・幼稚園の訪問を行い情報交換をしている。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			研修の機会があれば参加して行きたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			コロナ等の感染症問題で行えてなかったが終息した際は行いたいと思う。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		ローテーションで参加している		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に報告や連絡帳記載している。		
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			新年度は事業所の特性を活かしたトレーニングを家族参加型で行えるよう計画。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的ではないが連絡帳や送迎時にお話をお伺いしている。		子育ての悩みを一人で抱えている保護者様もおられるので、もう少し気軽に相談しやすい環境を作って行きたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			本年度はコロナの影響もあり開催出来なかったが新年度は三密にならないよう心掛け少人数で数回に分けて行う予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		連絡帳の記載内容や保護者様の異変を察知した際は速やかに相談員に連絡を行い連携を図っている。		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○				併用施設の利点を活かし利用者同士の交流の場を設ける。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			実践までは出来ていなかったがマニュアルは通達している。新年度は併用施設と合同で避難訓練を行う予定で計画中。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		新年度より行事計画に取り入れ定期的に避難訓練を行う予定。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーに関し保護者から書面にて情報の提供をして貰っている。	医師ではなく保護者からの情報提供を頂きおやつ提供前に再度確認を行う。気になる食物に関しては保護者に連絡し確認を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			今年度虐待防止研修受講予定の職員による研修会を予定。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			